

細菌課の 安楽正輝 主任研究員が 「第57回日本小児感染症学会総会・学術集会 ポスター賞」を受賞！

細菌課の 安楽正輝 主任研究員が、第57回日本小児感染症学会総会・学術集会にてポスター賞を受賞しました。本賞は、同学会において発表された一般演題の中から、優秀と認められた演題に対して授与されます。



- 受賞日：令和7年11月9日
- 授与機関：日本小児感染症学会
- 受賞演題：侵襲性黄色ブドウ球菌感染症における分離菌株のLeukocidin保有率



【どのような研究・とりくみが評価されたの？】

黄色ブドウ球菌は、人の皮膚や鼻の中などにいることが多い細菌で、軽い皮膚感染から重い感染症まで、さまざまな病気の原因になります。

本研究では、地域の医療機関と協力し、小児の黄色ブドウ球菌感染症から分離された菌を調べました。黄色ブドウ球菌の中には、白血球（体を守る細胞）を壊す毒素（Leukocidin）を産生する種類もあり、重症化との関係が注目されています。

今回、黄色ブドウ球菌がどの毒素の遺伝子を持っているかを調べたところ、これまで重症化に関わるとされてきた毒素とは別の毒素が重症化に関わっている可能性が示されました。この新しい知見が評価され、受賞につながりました。